第３講
ローマ帝国とイスラーム以前のインド史

〔1〕ローマ帝国

A.元首政〔プリンキパトゥス．前27 ～後284〕

アウグストゥス

・**オクタウィアヌス**

　・元老院より**アウグストゥス**（**尊厳者**）の称号を受ける（前27）

　・**プリンケプス**（第１の市民）を自称し，共和政を尊重（元老院と共同統治）した帝政

　・ゲルマン人との戦い（後９．トイトブルクの戦い）に敗れ，ゲルマニア経営を断念

パクス＝ロマーナ（ローマの平和）

・**五賢帝時代**（96 ～ 180）

　・**ネルウァ帝**

　・**トラヤヌス帝**…**最大版図**

　・**ハドリアヌス帝**…長城建設(ブリタニア)

　・**アントニヌス＝ピウス帝**

　・**マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝**

　　・哲人皇帝（ストア派）

　　・**大秦王安敦**（『後漢書』）…後漢へ使者を派遣（166）・日南へ

ローマ帝国と周辺地域

・貿易…季節風貿易

　・サータヴァーハナ朝などとの交易…『エリュトゥラー海案内記』

カラカラ帝

・アントニヌス勅令（212）…カラカラ帝が全属州自由民に対して**ローマ市民権**を付与

・**軍人皇帝時代**（235 ～ 284）…「３世紀の危機」

B.専制君主制〔ドミナトゥス．後284 ～ 476〕

ディオクレティアヌス帝（位284 ～ 305）

・**専制君主政**（皇帝崇拝を強要）

・**四帝分治制**（テトラルキア）…帝国を東西分割

・キリスト教徒大迫害

コンスタンティヌス帝

・**ミラノ勅令**（313）…**キリスト教の公認**

・**ニケーア公会議**（325）…教義の統一…アタナシウス派を正統とする

・**コンスタンティノープル**（ビザンティウムを改称）への遷都（330）

・コロヌスの移動禁止令（332．自由な小作人の移動を禁止）

テオドシウス帝

・**キリスト教の国教化**（392）…他の宗教・宗派を厳禁

・**帝国の東西分裂**（395）

　・**西ローマ帝国**（395 ～ 476）…**オドアケル**（ゲルマン人の傭兵隊長）に滅ぶ

　・**東ローマ帝国**（395 ～ 1453）…オスマン帝国（**メフメト２世**）に滅ぶ

〔2〕原始キリスト教史

イエスの時代

・**“神の絶対愛”“隣人愛”**を説く

・**パリサイ派**の**律法主義**（ユダヤ教）を批判

・イエスの処刑

　・ユダヤ総督**ピラト**　イエスは**キリスト**（救世主）として**復活**　**キリスト教**成立

使徒（12使徒）による伝道

・**ペテロ**（初代ローマ教皇）

・**パウロ**…異邦人への伝道

『**新約聖書**』の成立（１Ｃ半～２Ｃ半）…コイネー（ギリシア語）

　・**福音書**（イエスの言行の記録）・**使徒行伝**（初代使徒の活動）など

キリスト教徒（**皇帝崇拝を拒否**）に対する迫害・発展

・**ネロ帝**の迫害等（64）…**ペテロ・パウロ**の殉教

・**ディオクレティアヌス帝**による大迫害

・**ユリアヌス帝**（“背教者”）…ミトラ教の復活を図り迫害

　カタコンベ（地下礼拝所）での礼拝

ミラノ勅令（313）…キリスト教の公認（コンスタンティヌス帝）

キリスト教の国教化…異教・異宗派の厳禁（テオドシウス帝）（392）

教義の統一（キリスト論）

ニケーア公会議（325.　コンスタンティヌス帝）

・正統：**アタナシウス派**（**三位一体説**）…異端：**アリウス派**

エフェソス公会議（431）…異端：**ネストリウス派**

カルケドン公会議（451）…**単性論**派を異端

教父（“最大の教父”アウグスティヌス『神の国』）

〔3〕インド古代文明の形成

①**インダス文明　青銅器文明**

・**モエンジョ＝ダーロ**（シンド地方）・**ハラッパー**（パンジャーブ地方）

・**インダス文字**（象形文字．未解読）

②ヴェーダ時代〔前1500頃～前500頃〕

アーリヤ人＜印＝欧系＞の侵入・定着（前1500）

中央アジア　→　**カイバル峠**　→　**パンジャーブ地方**に定住

ヴァルナ制（“色”）

・バラモン（僧侶）　　　　　　　　・クシャトリヤ（王候・武士階級）

・ヴァイシャ（一般民衆．納税義務）・シュードラ（奴隷）

バラモン教成立

『**リグ＝ヴェーダ**』（前1200．神々への賛歌集）

新しい思想・宗教の展開

ａ．**ウパニシャッド哲学**

…「**梵**（ブラフマン）**我**（アートマン）**一如**」を説く…**輪廻転生**からの解脱

ｂ．**仏教**（開祖**ガウタマ＝シッダールタ**（クシャトリヤ出身））…クシャトリヤの支持

ｃ．**ジャイナ教**（開祖**ヴァルダマーナ**（クシャトリヤ出身））…ヴァイシャの支持

二大叙事詩の原形成立…『**マハーバーラタ**』・『**ラーマーヤナ**』

〔4〕古代インドの統一王朝の変遷

A.マウリヤ朝〔前４Ｃ～前２Ｃ〕 都　**パータリプトラ**

チャンドラグプタ王

・西北インド（インダス川流域）よりギリシア人勢力を一掃

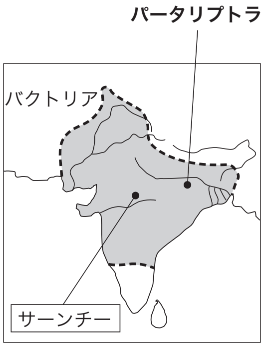
アショーカ王

・**ダルマ（法）**に基づく政治…**磨崖碑・石柱碑**に刻む

上座部仏教（小乗仏教）の保護

・第３回**仏典結集**（パーリ語）　・**ストゥーパ**（仏塔）をサーンチーに建立

・**セイロン布教**



マウリヤ朝

B-１.サータヴァーハナ朝〔前１Ｃ～後３Ｃ〕

南インド（デカン高原）の**ドラヴィダ系**王朝

『**マヌ法典**』の原形が成立

季節風貿易…ローマ帝国・東南アジアとの海上貿易（『**エリュトゥラー海案内記**』）

B- ２.クシャーナ朝〔１C～３C．イラン系クシャーナ族〕 都　**プルシャプラ**

大月氏から独立・建国（インダス川流域）

カニシカ王

大乗仏教の保護　第４回**仏典結集**（サンスクリット語）

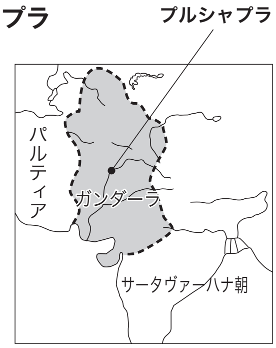
ナーガールジュナ（竜樹．２C～３C）

「**大乗仏教**」教学を確立

…**菩薩信仰**の下に全ての人間の救済を目指す

ササン朝の侵入・衰亡（３C）

ガンダーラ美術…ギリシア美術と大乗仏教の結合．仏像製造



クシャーナ朝

C.グプタ朝〔４C～６C〕 都　**パータリプトラ**

チャンドラグプタ１世…建国・北インド統一

チャンドラグプタ２世（位４～５C．超日王）

・**サンスクリット文学**

・**カーリダーサ**（４C～５C．詩人・戯曲家）…『**シャクンタラー**』

・**法顕**（東晋僧）の来印（陸路→海路）…『**仏国記**』

衰亡…**エフタル**による西北インド侵入

文化

ナーランダー僧院の建設（５C）…仏教学院（玄奘・義浄が学ぶ）

グプタ美術（純インド的仏教美術）…**アジャンター**・エローラ石窟寺院

ヒンドゥー教成立（仏教衰退後の中心的宗教）…民間信仰の融合

三大神…**シヴァ神**（破壊と創造の神）・**ヴィシュヌ神**・ブラフマー神

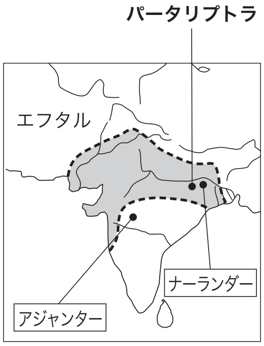
『**マヌ法典**』…各ヴァルナの義務と社会規範を定める

二大叙事詩の完成（サンスクリット文学）

『**マハーバーラタ**』

『**ラーマーヤナ**』

ゼロの概念



グプタ朝

D.ヴァルダナ朝〔７C前半〕

・**ハルシャ王**（戒日王）の建国・北インド統一

・**玄奘**（唐僧．三蔵法師）の来印（陸路）…『**大唐西域記**』

第３講　確認問題

次の文章を一箇所だけ訂正し正しい内容の文にせよ。

1　①アウグストゥスは９年の②トイトブルクの戦いで③ケルト人に敗れ，以後④ライン・ドナウ川がローマ帝国との境界となった。

2　五賢帝の二人目①ハドリアヌス帝のとき帝国領土は最大となる。五人目の②マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝は③ストア派の哲人皇帝で『自省録』を④ギリシア語で著した。

3　①284年即位した②コンスタンティヌス帝は，帝国を４分し正帝と副帝を２人ずつ立てて統治させる③四帝分治制をしいて④政治的秩序を回復し，分裂の危機をとりあえず回避した。

4　イエスは①ユダヤ教のパリサイ派を批判し，神の絶対愛や隣人愛を説いた。イエスの処刑後は②ペテロらの使徒が教えを広めた。その後，キリスト教は③ネロ帝らの迫害を受けるも，④テオドシウス帝によるミラノ勅令で信仰が公認された。

5　コンスタンティヌス帝が開催した①325年のニケーア公会議では，キリストを神と同一視し後に②三位一体説として根本教義が確立する③アタナシウス派が正統，キリストを人間とした④ネストリウス派が異端とされた。

6　カイバル峠を越えて西北インドに侵入しB.C.1000年過ぎに①インダス川流域に移動を開始したアーリヤ人は，その頃に②鉄器の農具の段階に入り定住農耕社会を形成しつつ「色」を意味する「③ヴァルナ」という身分制度を先住民との間に生じさせた。この移動期を④ヴェーダ時代という。

7　マウリヤ朝の最盛期を築いた①アショーカ王は征服活動の際多くの犠牲者を出したことから仏教に帰依し，②ダルマ（法，守るべき社会倫理）による統治を目指し石柱碑などに勅令を刻ませたが同王の死後，王朝は衰退，西北インドにギリシア人勢力，続いてイラン系遊牧民が侵入し，彼らの一派が③パータリプトラを都に④クシャーナ朝を建てた。

8　４世紀に成立したグプタ朝では①サンスクリット文学が隆盛したがその代表が②カーリダーサの作品『③マハーバーラタ』である。また，④ナーランダー僧院もつくられた。

9　ヴァルダナ朝を建てたのはハルシャ王であるが，同王が厚遇したのが『①大唐西域記』を著した②東晋の僧の③玄奘で彼は④陸路でインドと中国を往復した。

解答

1　③→ゲルマン人　　2　①→トラヤヌス帝　　3　②→ディオクレティアヌス帝
4　④→コンスタンティヌス帝　　5　④→アリウス派　　6　①→ガンジス川
7　③→プルシャプラ　　8　③→シャクンタラー　　9　②→唐